



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

8月号—No.363
2025.7.25
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【壺葺(つぼすみれ)】渋く濃い紅紫色。

一般的にスマレといえば濃い紫の小さな花をイメージするが、ツボスマレは長い茎の先に白い花をつける。花芯部が濃い紫であることからこの色の色名がある。元は万葉時代の襲色目(かさねのいろめ)の名称で、表は紫、裏は薄という春を表した配色の重ね着のこと。

●目次/*contents*

今月のニュース..... 2

令和8年度 助成要綱決定/ステージラボ茅野セッション報告

財団からのお知らせ..... 6

令和8・9年度「公共ホール邦楽活性化事業」登録演奏家決定・登録演奏家実地研修実施団体募集/「特別寄稿 ビューポイント view point」No.20掲載について/令和8・9年度「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」開催地募集/令和8年度「公共ホール音楽・現代ダンス活性化障がい者関連事業」実施団体募集

今月の情報..... 8

地域通信

調査研究事業報告..... 10

2024年度「地域の公立文化施設実態調査」① 全体概要/設置主体

今月のレポート..... 12

大阪府豊中市

豊中市立文化芸術センター「とよなかARTSワゴンフェスティバル」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

●令和7(2025)年9月30日(火)まで申請受け付け

令和8(2026)年度助成要綱が決定

令和8年度 助成要綱決定

「地域の文化・芸術活動助成事業」は、地方公共団体等の自主事業の企画制作能力の向上、公立文化施設の利活用の推進等を図るため、地域において自主的に実施する文化・芸術活動を支援するものです。

「地域伝統芸能等保存事業」は、地方公共団体等が実施する、各地域固有の伝統芸能等の記録・保存・継承事業に対して助成するものです。

助成申請にあたっては、それぞれの助成要綱をご確認の上、令和7年9月30日(火)までに手続きをお願いいたします。

募集締切: 令和7(2025)年9月30日(火)

●地域の文化・芸術活動助成事業

[1]創造プログラム

◎一般分

地方公共団体等が主体的に企画する、地域の活性化に寄与する長期的展望を有し、発展的・継続的に事業を実施する上で他の地域の参考となるような顕著な工夫が認められる公演、展覧会事業(※)(2年もしくは3年間の助成。ただし、各年度の申請を審査した上で決定)に対して助成する事業です。

※公演、展覧会とは別にアウトリーチ、ワークショップ等を行うものに限る。

◎企画制作力向上特別分

都道府県・政令指定都市が行う自主事業の企画制作力の向上や、他施設への波及効果をもたらす単年度の公演、展覧会事業(※)に対して助成する事業です。

※公演、展覧会とは別にアウトリーチ、ワークショップ等を行うものに限る。

◎地域課題対処特別分

文化・芸術により地域の課題に向き合い、解決に向けて取り組もうとするアウトリーチ、ワークショップ等を行う事業(2年もしくは3年間の助成。ただし、各年度の申請を審査した上で決定)に対して助成する事業です。

[2]連携プログラム

地方公共団体等が単独では実施できず、経費削減など連携することにより初めて実施できるもので、3以上の地方公共団体等が連携して共同で制作する事業や、そのために行う連絡調整に係る事業(原則1年間。ただし、連絡調整に係る事業は、翌年度の公演等の助成も可能)に対して助成する事業です。

●各事業の詳細については、実施要綱をご確認ください。各実施要綱および申請書類は、当財団のホームページからダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/docs/13742>

※申請書は、都道府県・政令指定都市が管内の市区町村等の分を取りまとめて、地域創造へ提出してください。各市区町村等においては、都道府県等の取りまとめ団体の期限も確認し提出してください。

●地域の文化・芸術活動助成事業に関する問い合わせ
総務部 益子
Tel. 03-5573-4164

●地域伝統芸能等保存事業に関する問い合わせ
総務部 高野
Tel. 03-5573-4056

事業名	分野	事業実施者		
		地方公共団体		
		都道府県	政令指定都市	市区町村
地域の文化・芸術活動助成事業	[1]創造プログラム(一般分)			○
	創造プログラム(企画制作力向上特別分)			×
	創造プログラム(地域課題対処特別分)			○
	[2]連携プログラム 連絡調整事業	○	○	○
[3]研修プログラム				
[4]公立文化施設活性化計画プログラム				
地域伝統芸能等保存事業	[1]映像記録保存事業	×	○	○
	[2]保存・継承活動支援事業			

[3] 研修プログラム

公立文化施設等で企画運営に携わる職員や「地域文化コーディネーター」など地域の文化・芸術活動を担う者のスキルの向上、ノウハウの習得などを旨とする実践的な人材育成事業(1年間)に対して助成する事業です。

地方公共団体の職員による文化芸術により地域の課題に向き合う取り組みを促進することを目的に行うアートの手法を用いたワークショップ等を実施するものに限り、地方公共団体の職員に対する研修も助成対象としています。

[4] 公立文化施設活性化計画プログラム

公立文化施設の地域において果たすべき役割と、それを実現するための方策を記載した計画を策定する事業に対して助成する事業です。

類似する他の公立文化施設が評価を行う場合(いわゆるピア・レビューを含む)も助成対象としています。

● 地域伝統芸能等保存事業

[1] 映像記録保存事業

市区町村が実施する、各地域の失われつつ

あり、かつ記録に残されていない地域固有の伝統芸能等を映像に記録・保存する事業に対して助成する事業です。

[2] 保存・継承活動支援事業

市区町村が実施する、地域固有の伝統芸能等の保存・継承のために活動している団体等への支援事業に対して助成する事業です。

【参考】令和7(2025)年度

「地域の文化・芸術活動助成事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
創造プログラム(一般分)	103	93
創造プログラム(企画制作力向上特別分)	25	19
創造プログラム(地域課題対処特別分)	28	14
連携プログラム	50	40
研修プログラム	16	15
活性化計画プログラム	2	0
合計	224	181

【参考】令和7(2025)年度

「地域伝統芸能等保存事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
映像記録保存事業	8	8
保存・継承活動支援事業	53	53
合計	61	61

事業実施者				会場	助成措置		申請期限
指定管理者		特定公益法人(※) 注1	実行委員会等 注3		助成率	助成の上限額 (1年ごとの金額)	
特定指定管理者(※) 注1	一般指定管理者(※) 注2						
○	○	○	○	原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設	1/2以内	1,000万円	令和7(2025)年9月30日(火)必着
都道府県・政令指定都市に係る指定管理者、特定公益法人、実行委員会等					○	500万円	
○	○	○	○	原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設	2/3以内	500万円 ※連携する事業全体で3,000万円	
○	○	○	○		2/3以内	100万円	
○	○	○	○		2/3以内	200万円	
○	○	○	○	2/3以内	200万円		
×	×	×	×	2/3以内	200万円		
×	×	×	×	1/2以内	30万円		

左表脚注

※特定指定管理者とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で指定管理者の指定を受けているものをいう。

一般指定管理者とは、上記以外の指定管理者をいう。
特定公益法人とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で地域創造が特に認めたものをいう。

注1：設置者である地方公共団体の長の副申書を添付。

注2：設置者である地方公共団体の予算を経由して間接的に助成。

注3：地方公共団体が実行委員会等に対して負担する額が助成対象。

●ステージラボ茅野セッション

身体を通して劇場でできることを探るワークなどを実施

ステージラボ 茅野セッション 報告

2025年7月1日～4日



ステージラボ茅野セッションが7月1日から4日まで茅野市民館・茅野市美術館を会場に開催されました。今回はホール入門と自主事業の2コースで、長野県の文化芸術の担い手を支援する多彩な活動を行っている信州アーツカウンシル・ゼネラルコーディネーターの野村政之さん(ホール入門)と、第一線のコンテンポラリーダンサー・振付家であり、ダン活をはじめ、公共ホールと協働した活動も多い鈴木ユキオさん(自主事業)がコーディネーターを務めました。

茅野駅直結の茅野市民館は、ホール、美術館、図書室、コミュニティスペースから成る複合文化施設です。2005年に開館し、今年で20周年を迎えます。市100%出資の株式会社地域文化創造が指定管理者となり、市民によるNPO法人サポートCにサポーター運営や企画制作などを委託し、協働するなかで市民提案を軸に多彩な事業を展開してきました。今回はこうした茅野市民館の運営についてシニアディレクターの辻野隆之さんやNPO法人サポートCなどから学ぶ講座も開講され、公共ホールの成熟した事例を現地視察する貴重な機会となりました。

●藤森照信建築ツアー～共通プログラム

茅野市は自然素材を積極的に取り入れた独

創的な建築で知られる藤森照信さん(建築史家・建築家)の出身地です。茅野市美術館では2010年に展覧会を企画し、茅野市民館の広場での展示作品《空飛ぶ泥舟》を市民が参加して制作しました(現在は市内・高部地区に移設)。今回の共通プログラムでは、藤森さんのレクチャーを受けた後、市内に点在する“ふじもり建築”を巡るツアーに出かけました。

木の上の《高過庵》や宙吊りの《空飛ぶ泥舟》、半地下の《低過庵》など、遊び心のある建築に受講生たちは釘付けでした。「土壁を塗る、銅板を曲げる、道具を片付ける、食事をつくるなど建築の仕事には誰でもできることがあるし、そういう仕事をつくるようにしている。ヘトヘトになるまでそういった仕事をみんなでちゃんとやる。表面は自然素材で原始的な設えにするが、建築として必要なことには新しい技術を使っている」と藤森さん。

学芸統括の前田忠史さんは、「藤森さんにはスケッチや模型、写真などを美術館に寄贈していただいている。現存作家と市民をつなげるのが学芸員や文化施設スタッフの仕事。双方の関わりがなかで作家も学びがある。ふじもり建築の見学会は普段から市民サポーターに協力してもらい実施している」と話していました。

写真

左上: 共通プログラム「藤森照信と巡るふじもり建築」市民サポーターによる説明の様子(《空飛ぶ泥舟》の内部)

左下: ホール入門コース「つながるサーカスWS」

右上: 自主事業コース受講生によるロビーでのパフォーマンス

右下: ホール入門コース「約50個の考え続けたい問い」展・発表(最終日の成果発表)

●コースコーディネーター

○ホール入門コース

野村政之(信州アーツカウンシル ゼネラルコーディネーター)

○自主事業コース

鈴木ユキオ([YUKIO SUZUKI projects] 代表/振付家・ダンサー)

●ステージラボに関する問い合わせ

芸術環境部 嶋崎・児島
Tel. 03-5573-4068

▼ 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

●自分ごととしてとらえる～ホール入門コース

社会環境の変化により、“当たり前”が通用しなくなった現在、ホールの仕事についてもさまざまな観点からの見直しが求められています。ホール入門コースでは、野村さんが、公立ホールの民間指定管理者、小劇場や行政、アーツカウンシルなどを経た自身のキャリア変遷と、ホールを取り巻く制度や社会の環境変化を説明。さらに、辻野さんとサポートCの皆さんから、市民主体でホールと協働しながら地域の文化環境づくりを進める茅野市民館20年のさまざまな取り組みとこれからの課題をうかがいました。

続いて、生活と仕事に焦点を当て、平岡あみさん(那覇文化芸術劇場なはーと)が出産・子育てを経て感じた課題・疑問や、ベイビーシアタープロジェクトなど仕事と生活を積極的に連動させる活動を紹介。複数のホール勤務を経てフリーになった伴朱音さんは、地域社会とホール事業の関係や、アーティスト・住民に対するホール職員の権力性への意識について共有しました。

また、大人も子どもも障がいの有無も言葉の違いも超えて取り組める「つながるサーカス」のワークショップを金井ケイスケさん(サーカスアーティスト)、唐川恵美子さん(ほっちのロッヂ文化環境設計士)、茅野市内2カ所の事業所「この街学園」「モモ」の通所者のみなさんと一緒に体験しました。受講生たちは、「障がいの有無の区別がシームレスになって一緒に取り組めるのがよかった」「息を合わせるだけでとても楽しかった」と興奮気味に話していました。

●カラダを通して考える～自主事業コース

自主事業コースでは、茅野市民館の空間でできることの可能性を探り、グループごとに上演場所を決め、創作したパフォーマンスをツアーしながら発表&鑑賞してもらい、収録した映像を自分たちでも確認するという一連のワークを軸にプログラムが組み立てられました。

合間には、鈴木さんが「企画を出しても予算が通らない。集客も考えなくてはならないなど、萎縮しているホール職員が何かを始めるきっかけになれば」と人選した講師と交流。受講生

たちは、エンタランスでさまざまなジャンルのパフォーマンスを企画してきた世田谷美術館の塚田美紀さん、多彩なダンス企画やイベントを軽やかに仕掛けているCONTE Dance Productionプロデューサーの森嶋拓さん、2000年から学校や福祉施設へのアウトリーチを続けているNPO法人芸術家と子どもたち代表の堤康彦さんから大いに刺激を受けていました。

完成したパフォーマンスは、市民が普段どおり使用している状態のロビーや階段、野外広場などで展開。「自分の身体で空間に挑戦すると言われ、最初はどういうことかわからなかったが、これまで見えていなかった空間まで意識できて面白かった」と受講生。鈴木さんは、「場所に行くことと関わることもある。場所を占有すると使用できないけど移動し続けていればできることもある。そういうちょっとした考え方の違いでできることが広がる。また、楽しいから笑うのではなく、笑っているから楽しいとか、自分の意識で主体的に身体の質感を変えていくことで自分も変わる。経験が必要だが、身体を通して考える可能性を感じてほしかった」と振り返っていました。

ステージラボ茅野セッション プログラム表

	ホール入門コース	自主事業コース
7月1日	開講式/オリエンテーション	
	「イントロダクションから出発!(WS)」 鈴木ユキオ、野村政之	
	「オープニングトーク」 野村政之	「オープニングトーク」 鈴木ユキオ
7月2日	全体交流会	
	共通プログラム「藤森照信と巡るふじもり建築 —その建築はどのようにして生まれたか—」 藤森照信	
	「続・イントロダクション」 野村政之	「茅野市民館を探検し、発見する」 茅野市民館スタッフ、鈴木ユキオ
	「茅野市民館を知る①」 辻野隆之	「自分の舞台を決める:実演に向けて」 鈴木ユキオ、茅野市民館スタッフ
	「茅野市民館を知る②」 八幡香、小池真紀、五味三恵	「空間や既存概念に挑戦してきた人たちと会う」 塚田美紀、森嶋拓
7月3日	「つながるサーカスWS」 金井ケイスケ	「外にリーチし続ける活動から学ぶこと」 堤康彦
	「わたしとアートと仕事について」 伴朱音、平岡あみ	「空間に自分の身体で挑戦する」 鈴木ユキオ
	「グループワーク『約50個の考え続けたい問い』展」 伴朱音、平岡あみ、野村政之	「上演前、最後の調整・上演～振り返り」 鈴木ユキオ
	「グループワーク&自主事業コース発表鑑賞」 伴朱音、平岡あみ、野村政之	
7月4日	「『約50個の考え続けたい問い』展・発表」 伴朱音、平岡あみ、野村政之	「劇場を超えるほどに外に仕掛ける勇気と作戦を」 鈴木ユキオ
	修了式	

財団からのお知らせ

●令和8・9年度「公共ホール邦楽活性化事業」登録演奏家が決定しました

当事業において令和8・9年度に全国に派遣される3名の登録演奏家を紹介します。登録演奏家は今後、公共ホール邦楽活性化事業についての具体的な事例や地域コミュニティとの関わり方、地域交流プログラムづくりのための研修を受け、来年度の実施に臨みます。

令和8年度の実施団体は現在募集中ですので、新たな演奏家と共に地域に邦楽を届けたい公共ホールの皆様は、ぜひご応募ください。

募集締切：2025年9月4日(木) 必着

●町田 夢子(まちだ ゆめこ)[箏]

埼玉県さいたま市出身。5歳より箏、後に地歌三絃を柴田つぐみに師事。17歳より深海さとみにも師事。24歳より胡弓を小池典子に学ぶ。東京藝術大学卒業、同大



学院修了。学部卒業時にアカンサス音楽賞、同声会賞を受賞し、皇居内桃華楽堂にて御前演奏を行う。現在は様々な演奏活動の中で研鑽を積みながら指導にも力を注ぐ。箏×打楽器Duoいとこまち、箏アンサンブル十色メンバー。宮城社師範。

●丹生谷 愛恵(にゅうのや まなえ)[箏]

長崎県長崎市生まれ、愛媛県松山市で育つ。6歳の頃に箏と出会い、これまでに箏曲家・吉崎克彦氏に師事。東京藝術大学音楽学部邦楽科現代箏曲専攻に第



4期生として入学。第7回K邦楽コンクール特別優秀賞受賞。第31回賢順記念全国箏曲コンクールにおいては最高位である賢順賞受賞。令和7年度、文化庁より「邦楽普及大使」を拝命。現在、公益財団法人 正派邦楽会、森の会、各会員。

●東田 はる奈(ひがしだ はるな)[笙]

兵庫県神戸市出身。東京藝術大学邦楽科雅楽専攻卒業。NHK教育テレビ「にほんごであそぼ」、野村萬斎演出『ハムレット』等のレコーディング参加。NHKラジオ「マ



イあさ!」ゲスト出演。光山文化財団主催「東田はる奈 笙リサイタル〜鳳凰の息吹〜」、他多数の演奏会に出演。全国各地でのアウトリーチや、海外アーティストとのコラボレーションにも精力的に取り組む。日本音楽集団所属。

●令和8・9年度「公共ホール邦楽活性化事業」登録演奏家 実地研修実施団体募集

新たにオーディションで選ばれた公共ホール邦楽活性化事業登録演奏家の実地研修として、公共ホール担当者との協働により実際に各地域でアウトリーチプログラムの実践を行うために、過去の邦楽、おんかつ事業実施団体からご協力いただける団体(1~3団体)を募集します。

募集締切：2025年9月18日(木) 必着

◎対象団体

令和6年度までの10年以内に邦楽活性化事業またはおんかつ(おんかつ支援事業を含む)を実施した団体

◎対象アーティスト

令和8・9年度公共ホール邦楽活性化事業登録演奏家

◎期間

令和7年11月~8年3月のうち、連続した2~3日間

◎場所

公共ホールおよび域内小学校

◎内容

1日目：ホールにてアウトリーチのランスルーとプログラムの作り込み

2日目・3日目：小学校でのアウトリーチの実践と振り返り等

◎経費負担

派遣にかかる謝金、旅費、宿泊費、楽器運搬費等を地域創造が負担

※詳細は実施要領等をご確認ください。

●「特別寄稿 ビューポイント view point」No.20掲載について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。

20回目となる今回は、NPO法人瀬戸内こえびネットワーク事務局長の甘利彩子氏にご寄稿いただきました。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/column20.html>



●公共ホール邦楽活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 渡邊
Tel.03-5573-4143
hougaku@jafra.or.jp

●特別寄稿 ビューポイント view point に関する問い合わせ
芸術環境部 伊藤
Tel. 03-5573-4093

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和8・9年度「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」開催地募集

この事業は、実践的な公立美術館運営能力の向上と、公立美術館の相互交流を図ることを目的とした2カ年にわたる研修事業です。申請者となる公立美術館と地域創造が共催する形で、美術館や地域の課題意識に沿って研修テーマを設定し、地域創造の負担で講師を美術館へ派遣します。

2年間のうち、内容の異なる半日程度の研修事業(識者による講義、事例紹介、グループディスカッション、実践的なワークショップ等)を複数回行います。日程は、申請館の希望する日程の中から調整をし、決定いたします。

申請館は、地域創造と相談し各研修のテーマ設定するほか、参加者募集に係る事務、参加者名簿の作成、司会や受付などの人員確保を含む会場の設営、配布資料の印刷などの業務を行うのみで実施できます。都道府県単位または都道府県内外のまとまった地域の複数の美術館でご参加をいただくため、美術館同士のネットワークの場としてもご活用いただけます。

原則として20名以上の参加者により実施いたしますので、公立美術館の学芸員に限らず、そのほかの美術館職員、美術館を設置する地方公共団体の行政部局の職員の皆様もふってご参加ください。

募集締切:2025年10月31日(金)必着

◎近年の研修内容

- 地域に根ざす文化施設の活動について(文化施設と他の行政分野との連携)
- アフターコロナの集客方法/集客できるチラシ、SNSの活用方法
- コレクションの活用方法/ミュージアムグッズの可能性
- SNSを活用したデジタルマーケティング戦略
- 生成AI時代の美術著作権
- 他分野の専門家から見たデジタル時代の美術館について
- 過疎地域におけるアートを通じた街づくりの継続性を考える
- 地方公立美術館の未来と可能性:限られたリソースを生かす発想と戦略

●令和8年度「公共ホール音楽・現代ダンス活性化障がい者関連事業」実施団体募集

この事業は、おんかつや邦楽事業、またはダン活事業の実施団体を対象として、特別支援学校や福祉施設等でアウトリーチによる地域交流プログラムを実施するものです。障がい者等を対象とした事業に係る公共ホール職員の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的としています。また、長期的なビジョンをもって事業を実施できるよう、最大3カ年まで実施可能です。

募集締切:2025年9月4日(木)必着

◎対象団体

- ①原則として令和6年度までの10年以内に、おんかつ・おんかつ支援・邦楽事業のいずれかを実施、または令和7年度に公共ホール音楽活性化事業(障がい者関連プログラム)を実施した市町村等(特別区を含み、政令指定都市を除く)。
- ②原則として令和6年度までの10年以内に、ダン活(平成29年度以降はダン活AプログラムおよびBプログラム、またはAプログラムおよびCプログラム)・ダン活支援のいずれかを実施、または令和7年度に公共ホール現代ダンス活性化障がい者関連事業を実施した市町村等(特別区を含み、政令指定都市を除く)。

◎事業内容

4日間以内の日程を1回または2回に分け、障害者施設等においてアウトリーチによる地域交流プログラムを4~8回実施。コーディネーターおよびアーティストとともに現地見(個別研修)を実施(2回まで可能)。

なお、①に該当する団体は音楽分野(クラシック音楽、邦楽)、②に該当する団体はダンス分野(現代ダンス)に係る事業を実施。

◎支援内容

- 全体研修会(事業実施に必要なノウハウ等の研修)の開催
- コーディネーターの派遣
- アーティストの派遣経費(謝金、現地移動費を除く交通費、宿泊費、日当、損害保険料)
- 地域交流プログラムに係る経費(ピアノ調律料、楽器運搬費、手話通訳謝金など:20万円限度)

※詳細は実施要綱等をご確認ください。

●美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ

◎申請方法

当財団ホームページより申請書をダウンロードし、郵送でお申し込みください。
<https://www.jafra.or.jp/project/visual-art/05.html>

◎問い合わせ

総務部 高野・中嶋
Tel. 03-5573-4056

●公共ホール音楽・現代ダンス活性化障がい者関連事業

実施要綱・申込書はホームページ内からダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/project/comm/01.html>

◎問い合わせ

芸術環境部 垂水・波多野
Tel. 03-5573-4076
project@jafra.or.jp

地域通信

●地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介します。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 伊藤・中嶋

●2025年10月号情報締切
8月8日(月)

●2025年10月号掲載対象情報
2025年10月～12月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●岩手県北上市

北上市文化創造
〒024-0084 北上市さくら通り
2-1-1
Tel. 0197-61-3300 高橋裕亮
<https://www.sakurahall.jp/>

さくらホールオリジナル盆踊り大会「さくら盆ジュエル2025」

誰でも参加可能なユニークな盆踊り大会。伝統の盆踊りだけでなく、岩手の伝統芸能やコンドルズによるオリジナルダンス「はやて」を踊るほか、コンドルズとブラック・ボトム・プラスバンドのメンバー、公募参加者による“魅せる”盆踊りの迫力あるライブを楽しめる。地元飲食店による屋台や体験型ワークショップなど、地域と協働して実施される。

[日程]8月11日
[会場]さくらホール feat.ツガワ野外特設会場

●岩手県岩手町

石神の丘美術館
〒028-4307 岩手郡岩手町大字五日市10-121-21
Tel. 0195-62-1453 齋藤・石山
<https://ishigami-iwate.jp>

North Wind Project / 北から吹く風 Vol.4 (紙の上の冒険 Wandering on paper)

2016年からスタートした、岩手にゆかりのある若い世代の美術家をゆるやかなテーマのもとで紹介するシリーズ企画展。今展では、伊山桂、岩瀬毅弘、土井潤美による、紙の上に独自の技法を展開した作品などを紹介する。ワークショップや公開制作、出品作家3名によるギャラリートークも開催。

[日程]6月14日～8月31日
[会場]石神の丘美術館

●秋田県秋田市

秋田アトリオン事業部
〒010-0001 秋田市中通2-3-8

アトリオンビル4F

Tel. 018-836-7803 藤原崇世
<https://www.kosei-buil.co.jp/atorion/>
平澤真悟 尺八コンサート
～和の調べ～

東北を中心に活躍する尺八奏者・平澤真悟のコンサート。アトリオン音楽ホールでは県内出身の演奏家を積極的に起用しており、平澤のほか、共に秋田県出身の佐市(ピアノ)、市川慎(箏)が出演。尺八とピアノ、箏と尺八など、それぞれの組み合わせで奏でられる楽器の音色と、実力派演奏家たちの共演を楽しむことができる。

[日程]8月23日
[会場]アトリオン音楽ホール

関東

●栃木県小山市

小山市立車屋美術館
〒329-0214 小山市乙女3-10-34
Tel. 0285-41-0968 古谷美也子
<https://www.city.oyama.tochigi.jp/kurumayamuseum/>

アートリンクとちぎ2025「生きものづくし～会いに行こう、絵の中へ」

高久露屋や田崎草雲、小杉放菴ら幕末から昭和にかけて活躍した栃木ゆかりの画家による、生きものを描いた作品の展覧会。花鳥画や風景画、仏画などに登場する小さな虫から、犬や猫、龍などさまざまな生きものに向ける画家のまなざしと表現に注目し、身近な暮らしから空想の世界まで大切な役割をもつ生きものたちと人との共生について考える。

[日程]8月2日～31日
[会場]小山市立車屋美術館

●栃木県鹿沼市

鹿沼市立川上澄生美術館
〒322-0031 鹿沼市睦町287-14
Tel. 0289-62-8272 戸崎守
<https://kawakamisumio-bijutsukan.jp/>

語り継がれる寓話と神話

—川上澄生作品を中心に—

川上澄生誕130年を記念した企画展。19世紀に出版されたラ・フォンテーヌの『寓話』やイソップ寓話、明治時代のイソップ寓話の翻訳本など貴重な資料を交え、寓話と神話をモチーフにした川上作品を紹介し、古代から現代まで語り継がれる物語の魅力に迫る。会期中はイソップ寓話の読み聞かせや豆本づくりワークショップなども実施。

[日程]4月12日～8月31日
[会場]鹿沼市立川上澄生美術館

北陸・中部

●新潟県長岡市

長岡市芸術文化振興財団
〒940-2108
長岡市千秋3-1356-6
Tel. 0258-29-7715 殖栗寿史
<https://www.nagaoka-caf.or.jp/lyric/>
リリック・ジュニア・ミュージカル公演『君のとなりに名探偵～もしくは見えないお友達～』

リリック・ジュニア・ミュージカルは、平成16年度に市民提案事業としてスタート。プロの講師による指導に加え、市民による実行委員のサポートの下、稽古を重ねてきた。今回は、小学3年生から高校3年生までの総勢33人が出演。子どもたちの真摯な表現が光るオリジナル作品を上演する。

[日程]8月11日
[会場]長岡リリックホール

●富山県南砺市

(公財)利賀文化会議
〒939-2513 南砺市利賀村上百瀬70-2
Tel. 0763-68-2356 重政良恵
<https://www.scot-suzukicompany.com/>

SCOTサマー・シーズン2025

世界中の演劇ファンが「演劇の聖地」利賀を訪れ、世界レベル

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

の演劇プログラムを楽しむ夏の祭典。2025年は、鈴木忠志が劇団SCOTを創立して60年、「世界は日本だけではない 日本は東京だけではない この利賀村で世界に出会う」をスローガンに利賀に拠点を移して50年のメモリアルイヤー。花火を使った野外劇として人気の鈴木忠志演出『世界の果てからこんにちはⅠ』、劇場版『世界の果てからこんにちはⅡ・Ⅲ』一挙上演、4カ国語版『ディオニュソス』など充実したプログラムを展開。

[日程] 8月22日～9月14日
(期間中の金・土・日)
[会場] 利賀芸術公園

●福井県あわら市

金津創作の森財団
〒919-0806 あわら市宮谷57-2-19
Tel. 0776-73-7800 尾藤由菜
<https://sosaku.jp/>

海野和男 昆虫写真展

「ふしぎ昆虫ビッグワールド」

国内外を飛び回る、世界的な昆虫写真家・海野和男による、当館初の昆虫の写真展。約100万種を超える昆虫の世界から、馴染み深いカブトムシやクワガタ、国内外の美しい蝶、普段目にする事のない珍しい昆虫まで、約175点の写真作品を展示。そのほか、昆虫スタンプラリーや夏の虫観察会などの関連イベントが行われる。

[日程] 7月12日～9月28日
[会場] 金津創作の森

●愛知県岡崎市

岡崎市シビックセンター
〒444-0813 岡崎市羽根町字貴登野15
Tel. 0564-72-5111 西川敬子
<https://www.civic.okazaki.aichi.jp/>

アンサンブル天下統一・中木健二プロデュース チェロ・アンサンブル

岡崎市シビックセンターのレジデントアンサンブル「アンサンブル天下統一」のメンバーが室内楽コンサートをプロデュースするシリーズ。天下統一が講師を務める「アンサンブル・アカデミー」受講生を起用し、中木健二が若手チェロ奏者3名と共に、チェロの音色と魅力を存分に堪能できるプログラムを披露する。

[日程] 9月7日
[会場] 岡崎市せきれいホール

近畿

●三重県津市

三重県文化会館
〒514-0061 津市一身上田津部田1234
Tel. 059-233-1112 黒田美音
<https://www.center-mie.or.jp/bunka/>

ピアニスト・高橋ドレミの親子で楽しむレクチャー&コンサート

毎年夏に三重県総合文化センターで開催している子ども向けイベント「アソボ・マナボ・タノシソウブン」。そのプログラムのひとつとして実施する。小学生とその家族を対象に、ピアニストの高橋ドレミがピアノをはじめとする会館所蔵の鍵盤楽器の数々を紹介。舞台上の特設席で小学生がレクチャーを受けた後、客席に座って親子でピアノコンサートを楽しむ。

[日程] 8月9日
[会場] 三重県文化会館

●神戸市

横尾忠則現代美術館
〒657-0837 神戸市灘区原田通3-8-30
Tel. 078-855-5607 早水千尋
<https://ytmoca.jp>

横尾忠則の肉体派宣言展

横尾忠則の芸術と密接に関わってきた「肉体」に焦点を当てた展覧会。横尾自身の身体性を感じ取ることができる「描く肉体」、モチーフとしての身体に着目し

た「描かれる肉体」、肉体がなくなった世界について考える「肉体を超えて」の3部構成で紹介する。大胆な筆使いから、体の赴くままに描く横尾の動きを体感できる。

[日程] 5月24日～8月24日
[会場] 横尾忠則現代美術館

中国・四国

●広島県廿日市市

はつかいち美術ギャラリー
〒738-0023 廿日市市下平良1-11-1
Tel. 0829-20-0222 塩見昌子
<https://www.hatsukaichi-csa.net/galleryevent/heiwater/>

第29回はつかいち平和美術展「丸木位里・丸木俊 夫妻 原爆の図」

新型爆弾投下の知らせを聞き広島へ駆けつけた同県出身の二人の画家、丸木位里とその妻丸木俊が実際に惨状を目撃し、家族からの証言をもとに描いた《原爆の図》や、貴重な被爆後の風景スケッチ、資料など、国境や世代を超えて原爆の記憶を伝え続けた2人の仕事を紹介する。原爆投下後の巨大台風の惨禍のパネル展を同時開催。

[日程] 7月27日～8月17日
[会場] はつかいち美術ギャラリー

●愛媛県松山市

愛媛県美術館
〒790-0007 松山市堀之内
Tel. 089-932-0010 喜安嶺
<https://www.ehime-art.jp/>

森のなぞなぞ美術館VI

「あぜちさん、いしづちさん」

石鎚国立公園指定70周年を記念し、畦地梅太郎作品をはじめとした県内の豊かな森林に関連した所蔵品や、県内ゆかりの作家による作品を展示する。ワークショップや山の日レクチャーのほか、ペインター・イラストレーターとして活動する愛媛県出身

の友澤健太郎による公開制作も行われる。

[日程] 6月24日～9月5日
[会場] 愛媛県美術館

九州・沖縄

●福岡県大野城市

大野城まどかぴあ
〒816-0934 大野城市曙町2-3-1
Tel. 092-586-4000 手嶋麻衣子
<https://www.madokapia.or.jp/>

五感に響け!真夏のバリエーションコンサート

お互いに配慮し合うことで、障がいの有無や年齢にかかわらず、誰もが安心して楽しめるクラシックコンサートを開催する。会場照明は明るめに設定し、上演中に自席での鑑賞が難しくなった場合やパーソナルスペースが必要になった人のために「ひとやすみシート」を設置。ほかにもさまざまな鑑賞サポートを用意している。

[日程] 8月24日
[会場] 大野城まどかぴあ

●熊本市

熊本県立劇場
〒862-0971 熊本市中央区大江2-7-1
Tel. 096-363-2235 井田智子
<https://www.kengeki.or.jp/>

ホワイエサロンシリーズvol.12 朗読 夢十夜

2021年にホールの部分利用を開始した熊本県立劇場は、翌年からその多様な使い方や魅力を発信すべくホワイエサロンコンサートを企画。12回目の今回は漱石来熊130周年を機に、『夢十夜』を朗読。県ゆかりの俳優や太鼓芸能集団「袖衣」が、暮れていく外の様子を背景に物語を紡いでいく。姜尚中館長と出演者によるアフタートークも実施。

[日程] 8月31日
[会場] 熊本県立劇場コンサートホール ホワイエ

文化に関わる他の行政分野との連携が大幅に増える

2024年度 「地域の公立文化施設実 態調査」①

全体概要／設置 主体

*2024年度「地域の公立文化施設実態調査」報告書は、地域創造ホームページにも掲載しています。

●2024年度「地域の公立文化施設実態調査」調査概要

○調査対象

公立文化施設のうち、「専用ホール」、「その他ホール」、「美術館」、「練習場・創作工房（アーティスト・イン・レジデンス施設を含む）」およびそれらを含む「複合施設」と、施設の設置主体にあたる地方公共団体。

○調査時期

2024年9月～11月

○調査方法

全国の地方公共団体の文化行政担当者に、当該団体が設置主体となっている調査対象施設を記入する「施設設置一覧記入票」と「地方公共団体向け調査票」、「施設調査票」を配布。当該団体において「施設設置一覧記入票」と「地方公共団体向け調査票」の記入および「施設調査票」の各施設への配布と取りまとめをしていただいた。

○調査回収数

●地方公共団体票の有効回収数
1,756（都道府県47（100%）、政令市20（100%）、市区町村1,687（98.0%）、一部事務組合2）

●地方公共団体からの回答

3,500館 延べ3,692施設
（「専用ホール」1,535、「その他ホール」1,340、「美術館」651、「練習場・創作工房」166）

●地方公共団体から回答があった3,500館のうち、施設からの施設調査票の有効回収数

3,478館 延べ3,670施設
（「専用ホール」1,523、「その他ホール」1,333、「美術館」648、「練習場・創作工房」166）

●調査研究に関する問い合わせ

芸術環境部 中嶋・児島
Tel. 03-5573-4066

地域創造では、公立文化施設の整備状況と管理運営の実態を把握するため、財団設立以来、およそ5年に一度のペースで、「地域の公立文化施設実態調査」を実施してきた（前回は令和元（2019）年度）。調査対象は、設置主体である地方公共団体および「ホール施設（舞台芸術の公演等を主目的とする『専用ホール』と舞台芸術以外を主目的とする『その他ホール』の2種に区分）」「美術館」「練習場・創作工房」である。このうち、今号では、2024年調査の結果から、全体概要と設置主体である地方公共団体の文化行政の動向について、その一部を紹介する。

なお、前回調査とは回答数（回収率）が異なることを予めお断りしておく。

●公立文化施設数

地方公共団体からの回答に基づく今回調査での公立文化施設の数、全体で、3,500館となった。1つの館内に複数の文化施設を持つ館があるため、施設数の延べでは3,692館である。施設数の内訳は、専用ホールが1,535、その他ホールが1,340、美術館が651、練習場・創作工房が166となっている〔表1〕。

2019年度調査と比較すると、専用ホールでは1,483施設から1,535施設へと増加している一方、その他ホールは1,363施設から1,340施設へと逆に減少。また美術館では、648施設から651施設へと微増に止まった。練習場・創作工房は177施設から166施設へと減少している。上述したように、回収率が異なるためそのまま数値を比較することは困難だが、文化芸術を目的とした施設がやや増加している一方で、それ以外の目的をもつ施設が減少している傾向にある。

●管理運営形態

各館の管理運営形態を見ると、指定管理が1,678館で全体の48.0%を占める（「公募」が29.4%、「非公募」が17.9%、「PFI事業者が指定管理者」が0.7%）。直営は1,804館、51.5%である。2019年度調査では、指定管理が1,589

館で全体の46.1%、直営が1,843館で53.5%となっており、指定管理館がこの5年で1.9%増える一方、直営は2.0%減少するという結果になった。指定管理者導入のゆるやかな流れは今も続いている。

設置主体との関係を見ると、公募の指定管理者を導入している比率が、政令市で60.9%、都道府県で49.3%となっているのに対し、その他の市区町村では24.5%に止まっていることが最大の差となっている〔図1〕。施設内容別では、指定管理の比率が最も高いのは専用ホールの64.7%で、次いで練習場・創作工房の61.4%が続く。一方、美術館（41.0%）、その他ホール（33.9%）は比較的低い。

●指定管理者の種別

指定管理者の種別の構成比を見ると、最も多いのは「公益財団法人」の37.0%で、次いで「株式会社、有限会社など（営利法人）」の22.3%、「共同事業体（JV）等のコンソーシアム」の16.0%となっており、他の種別の構成比は1割を切る。前回の2019年度との比較では、「公益財団法人」の比率が前回の38.1%から微減している一方、「株式会社、有限会社など」は21.3%から、「共同事業体等のコンソーシアム」は14.3%からそれぞれ微増している〔表2〕。

●文化芸術に係る決算額

文化芸術に係る2023年度の決算額平均についての調査結果は、文化芸術事業費平均59,660千円、文化施設経費平均193,514千円、文化施設建設費平均53,708千円であった。前回調査の2018年度決算額と比較すると、文化施設費平均のみ前回の168,939千円から増額となっているが、他は減少している〔表3〕。

●文化芸術基本法に基づく連携の強化

2017年にそれまでの文化芸術基本振興法が現行の文化芸術基本法に改正されたことに伴い、国の政策が、文化芸術を単体で振興することから、他の分野と連携しつつ文化芸術を総合的に推進することに切り替わった。こ

れにより、地方公共団体においても、同様の方向性が求められることとなった。今回調査の結果をみると、こうした「他の行政分野との連携の強化」を既に行っている地方公共団体の割合は全体で29.7%と3割近くに及んでいる。前回の2019年調査の16.2%から、2倍弱と、顕著な伸びとなった。

種別ごとに見ると、政令市で80.0%、都道

府県で76.6%、人口20万人以上の市区町村で60.7%が「行っている」と回答している。市区町村では人口規模が小さくなるにつれ「行っている」比率が顕著に下がっているが、人口1万人未満でも20.4%が「行っている」と答えており、これは前回の全体平均を上回る。他の行政分野との連携は、全国的に、ある程度の定着を見せつつあると考えられる[図2]。

※図表注
小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

表1 施設内容別 館数と構成比

施設内容からみた種別	専用ホール	その他ホール	美術館	練習場・創作工房	2024年		2019年		
					館数	構成比(%)	館数	構成比(%)	
単独	○				1,418	40.5	1,334	38.8	
		○			1,240	35.4	1,239	36.0	
			○		582	16.6	569	16.5	
				○	83	2.4	87	2.5	
	小計				3,323	94.9	3,229	93.8	
複合	○	○			45	1.3	67	1.9	
	○		○		31	0.9	37	1.1	
	○			○	31	0.9	33	1.0	
		○	○		17	0.5	18	0.5	
		○		○	26	0.7	27	0.8	
			○	○	13	0.4	16	0.5	
	小計				163	4.7	198	5.8	
	3施設	○	○	○		1	0.0	1	0.0
		○	○		○	6	0.2	7	0.2
		○		○	○	2	0.1	3	0.1
			○	○	○	4	0.1	3	0.1
小計				13	0.4	14	0.4		
4施設	○	○	○	○	1	0.0	1	0.0	
総計					3,500	100.0	3,442	100.0	

表2 指定管理者の種別

	館数	(%)		館数	(%)
指定管理施設全体	1,678	100.0	株式会社、有限会社など	374	22.3
公共団体・公共的団体	28	1.7	任意団体	33	2.0
公益財団法人	621	37.0	JV等のコンソーシアム	269	16.0
一般財団法人	143	8.5	有限責任事業組合(LLP)	0	—
公益社団法人	8	0.5	学校法人	1	0.1
一般社団法人	33	2.0	その他	28	1.7
NPO法人	92	5.5	不明(未回答)	48	2.9

図1 管理運営形態(%) (設置主体別)

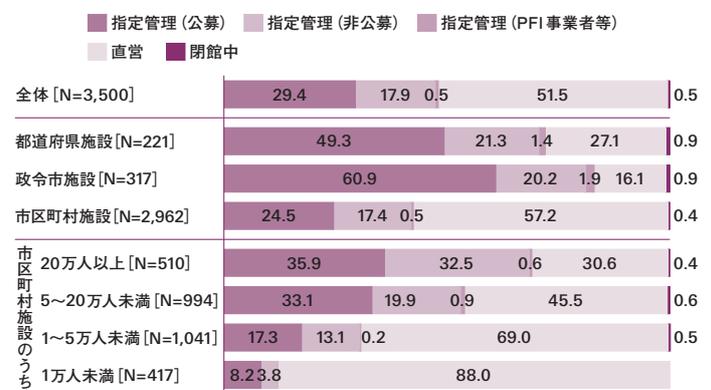
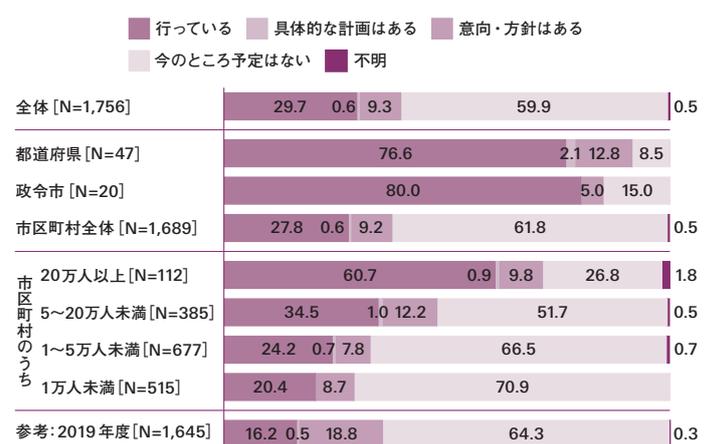


表3 2023年度 文化芸術に係る決算額(団体種別)

	文化芸術事業費		文化施設経費		文化施設建設費		
	有効回答数	平均(千円)	有効回答数	平均(千円)	有効回答数	平均(千円)	
全体	1,579	59,660	1,494	193,514	1,283	53,708	
団体種別	都道府県	44	791,973	45	1,339,338	39	63,900
	政令市	20	705,012	20	2,283,940	16	1,476,849
	市区町村	1,515	29,872	1,429	128,175	1,228	34,842
	20万人以上	108	193,619	106	680,003	96	80,085
	5~20万人未満	356	40,953	347	195,154	289	42,778
	1~5万人未満	616	13,378	589	61,918	502	41,208
1万人未満	435	3,505	387	17,811	341	6,008	
参考:2018年度実績	1,504	67,166	1,411	168,939	1,131	80,563	

図2 文化に関わる他の行政分野との連携の強化(%) (団体種別)



▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

大阪府豊中市 豊中市立文化芸術センター とよなかARTS ワゴンフェスティ バル



上：野村友輝(左)、柳野伽耶/下：(左から)石塚和基、東川内梨沙、別府みつき
提供：豊中市立文化芸術センター

●とよなかARTSワゴンフェスティバル
【会期】2025年6月14日
【主催】豊中市立文化芸術センター(指定管理者：豊中市市民ホール等指定管理者)、豊中市

【会場】豊中市立ローズ文化ホール
【出演】レジデントアーティスト：柏本佳樹(チューバ)、山崎恒太郎(トランペット)、野村友輝(クラリネット)、柳野伽耶(マリimba・打楽器)/アーティストバンク登録アーティスト：石塚和基(ヴァイオリン)、藤重奈那子(箏・十七絃・地歌三味線)、別府みつき(クラリネット)、中嶋奏音(ピアノ)、東川内梨沙(ピアノ)

●レジデントアーティストの活動
アウトリーチ事業「ふれアート」をはじめとした、市内でのアウトリーチ活動/ロビーコンサートや「とよなかARTSワゴン」関連の公演等への出演、研修等への参加/文化芸術センターが主催する公演や、市内のさまざまな団体からの依頼に応じたイベント出演等

●市民コーディネーター育成プログラム(2025年度)
「社会包摂」の視点から考えるアートマネジメント講座を開講(上半期：計7回)。その後、企画制作ワークショップなど、より実践的な体験を通して新しい知の発見を試みる(下半期：計9回予定)。

大阪のベッドタウンである豊中市(人口約39万8千人)は、日本センチュリー交響楽団や大阪音楽大学の拠点があり、市が「音楽あふれるまち」を掲げる中核都市である。その文化活動の拠点となる豊中市立文化芸術センターでは、地域に根差したレジデントアーティスト(演奏家)と、アートと人をつなぐ市民コーディネーターを育成する「とよなかARTSワゴン」事業に取り組んできた。6月14日、新旧レジデントアーティスト9名が顔を揃える演奏会「とよなかARTSワゴンフェスティバル」を訪れ、公共ホールの人材育成の現場取材した。

●
レジデントアーティストは2年の任期制で、終了後はアーティストバンク登録アーティストとして活動する。今回のフェスティバルには、2024年度と25年度のレジデントアーティスト4名、登録アーティスト5名が出演。同センター芸術プロデューサーを務める小味渕彦之総合館長が演奏家と楽曲を紹介。チューバ、クラリネット、マリimba、箏、ヴァイオリン、ピアノと多彩な演奏が続き、ラストは登録アーティスト3名による聴き応えのあるアンサンブルで締め括られ、会場を訪れた普段着姿の多数の市民があたたかな拍手を送っていた。

同センターを運営するのはJTBコミュニケーションデザイン・日本管財・大阪共立グループで構成される民間の指定管理者だ。事業広報課課長の永福邦子さんは、「現在の公立文化施設は地域にどのように貢献するかが問われています。豊中市から地域の人材育成を求められるなか、具体化したのがとよなかARTSワゴンです」と言う。2017年度に地域創造の「おんかつ」に参加し、登録アーティスト制度やアウトリーチのプログラム制作などの知見を得て、19年に豊中ならではの育成事業として立ち上げた。

演奏家は、毎年40名ほどの応募者からオーディションで2名を選考。アウトリーチのプログラム開発等を行う4日間の合宿を経て、そのプログラムを小学校に出掛ける「ふれアート」で実践する。また、市民と共にアートマネジメント講座も受講する。任期中は小学校へのアウト

リーチを年10コマのほか、ロビーコンサート、フェスティバル、こどもアートの日などのイベントに出演し、2年目にはホールでのリサイタルに臨む。「最初は地域在住の演奏家を想定していましたが、今は関西圏まで広がっています。ホール・地域に縁のある演奏家として、主催公演などで活躍できる機会をできるだけつくっています」と永福さん。

合宿では、演奏家による模擬アウトリーチに対して講師や先輩アーティストが講評し、練り直すというフィードバックを朝から晩まで繰り返す。なかなかハードな研修だが、レジデントアーティスト任期2年目の5期生の野村友輝さん(クラリネット)、柳野伽耶さん(マリimba)は「楽しい体験だった」と声をそろえる。

野村：「元々、子どもと関わる演奏活動をしていたのですが、もっと子どもとの関わりを深めたくて応募しました。研修では『すべて受容する。子どもの楽しなかったという気持ちも大切』というアドバイスが印象に残っています。私は大東市から通っていますが、まちの人から声をかけていただくことも多く、豊中と縁ができたことを嬉しく思っています」

柳野：「研修では『何を伝えたいのか』『なぜこの音楽なのか』が繰り返し問われました。他所では体育館で全校生徒に演奏することが多いのですが、「ふれアート」は音楽室で1クラスごとに行うので子どもとの距離が近く、一人ひとりの反応を間近で受け止められました。アートマネジメント講座も知らなかったことを市民と一緒に学べたのがとても新鮮でした」

とよなかARTSワゴンは6年目に入り、登録アーティストは13名になった。「ふれアート」は、市内40校中14校に広がった。一方、レジデントアーティストの音楽活動を支える人材育成として始まった市民コーディネーター育成プログラムは市民の幅広い関心に応えるにはどうすればいいか思案の真っ最中だ。

民間指定管理者として指定期間という縛りがある中、どうすれば適正な育成事業に取り組めるのか——豊中での試行錯誤が続いている。

(アートジャーナリスト・山下里加)